

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

- 1 事業名： 第2回OKUTSU芸術祭
- 2 実施団体： OKUTSU芸術祭実行委員会
- 3 協働担当課： 美作県民局 地域政策部 地域づくり推進課

4 事業概要

(1) 目的

令和6年度に、隣接する倉吉市に鳥取県立美術館の開設が決定しており、美作国の院庄ICから倉吉に向かう国道179号線沿線等を高速道路経由では味わえない、各駅停車でアート等が楽しめる沿線に創造するとともに、主たる舞台とする鏡野町奥津地区のみならず、アートをテーマとして美作国のエリア発展に寄与する。そのためには、地域における真の芸術風土の醸成とこれに関わるアーティストを含めた人材育成が必要であり、中長期目線でこれに取り組むとともに、鳥取県立美術館OPENまでに、美作国のアートレベル(意識・人材・産業・施設)を倉吉市と対等水準に引き上げ、芸術愛好者や一般客が、倉吉への一方通行だけでなく、鳥取県側からも国道179号線を通して美作国に来てくれる双方向の流れを創出する。

(2) 事業内容

一過性のイベントとした運営は行わず、奥津・鏡野を発信地として、美作国全体に本物志向の芸術文化を芽生えさせ育てていく。そのため、地元芸術家(美作国出身)を中心に大学の専門教育を受けた将来有望なアーティストによる滞在・公開制作等を行い、本物志向の芸術世界を見せることにより中高校生に将来の可能性と道を開き、本流芸術家への道の具体化に努めた。

会期 …… 2020年9月12日(土)～11月23日(月)

5 実施内容

(1) 事業の進め方

- ・ 新型コロナに対しては、「やらない理由を並べてやらない」のではなく「どうやったらリスクを抑え、さらにコントロールできるか」を考え企画実現に取り組んだ。
具体策として、コロナへの基本対応に加え、かがみのミュージックライブの無観客且つ鏡野町有線テレビでの生放送や、お寺ライブでの適切な客席設置、外から鑑賞できる企画(NORENプロジェクト、山の洗濯美術館)などの対応を行った。
- ・ 鏡野町から助成を受け共催となったこともあり、町の広報誌「広報かがみの」にパンフレットを挟み込み、鏡野町全戸に配布し、芸術祭開催の周知を図った。
- ・ 開会式から各イベントまでYouTubeで配信し、新型コロナ対策且つ「取組の見

える化」を図った。

(2) 内容

① プロジェクト展

- ・NORENプロジェクト(奥津R179一帯を中心)
- ・山の洗濯美術館プロジェクト(道の駅回廊・芝生広場)
- ・地獄図プロジェクト(宝樹寺)
- ・アニメーション作品(東北芸工大協力)
鏡野町有線テレビ放送、YouTube配信中(チャンネル:奥津芸術祭)
- ・成安造形大学卒業生・在学生有志作品展(ペスタロッチ館ギャラリー)

② 作品展示

- ・アート・イン・レジデンス … 広島市立大学生6人招へい(8会場)
- ・美作国作家等作品展 … 奥津温泉道の駅研修棟、宝樹寺、かがみの近代美術館、石庭遊園地、武本名産店、国民宿舎いつき、みずの郷奥津湖、そば処秀峰、ひだまり、旅籠ひろすけ、富福祉センター、奥津公民館、池田屋河鹿園、なごみ茶屋

③ 音楽イベント … 全企画をYouTubeで配信中(チャンネル:奥津芸術祭)

- ・かがみのミュージックライブ(10/18) … 無観客・有線テレビ生放送
- ・お寺ライブ(9/19 宝樹寺)
- ・オルゴールコンサート(10/3 鏡野町ペスタロッチ館)
- ・オープニングコンサート(9/12 開会式／観光協会)



開会式・オープニングライブ(観光協会)



短編アニメーション作品(動画)



NORENプロジェクト:道の駅 他



山の洗濯美術館:道の駅奥津温泉



地獄図プロジェクト：宝樹寺



アートインレジデンス;国民宿舎いつき 他



県北作家作品展:富総合福祉センター



県北作家作品展:かがみの近代美術館



県北作家作品展:奥津公民館



かがみのミュージックライブ:無観客生放送



宝樹寺:お寺ライブ



オルゴールコンサート:ペスタロッチ館

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

- ・温泉エリアに『アート』『R179』『倉吉、鳥取県立美術館』というキーワードを組入れ、再発展に向けた一つの方向性を示すことができたと感じた。
- ・鳥取県より複数の視察があり、協力関係構築に向けた動きに繋がると感じた。
- ・県北他市町からの協力・参加申出（一般の方、アーティスト、音楽関係者）が多く寄せられ、今後の企画・運営に大きな力を得た。その一方で、鏡野町内での反応は、総じて「様子見」的印象を受け、地元との思考・感覚のギャップをいかに埋めるかが今後の大きな課題と考える。
- ・訪れた方の評価・満足度を通じて“美作国の価値を高めること”こそが地域発展の基礎になることを中長期的な取組を通じて学ぶ機会となった。
- ・見せる芸術イベントに止まらず、芸術風土を醸成する人材育成の必要性、国道179号沿線の発展の意義と必要性について引き続き訴え、さらに芸術祭後のフォロー（来季構想への理解・参画等）を行い浸透を図る。
- ・既に来期に向け、奥津・鏡野町エリアでの「棟方志功のもたらした版画文化の再生」並びに「美作国での広域連携」交渉を行っており、より進化した芸術祭の開催を目指した基盤が出来つつある。

(2) 今後の課題

- ・音楽界の人出が実行委員や協力者に加わったが、アート発信地である奥津エリアのボランティアが少なく、マンパワー不足が解消できなかった。一方、来年度は「REBORN版画プロジェクト」を始動し、版画家のネットワークで委員に入る計画（既に希望者あり）。
- ・展示可能な作品、協力作家は数多いが、奥津地区に展示可能な大型施設がないことがネック。来年度は県北他市町の施設で広域連携開催する計画。
- ・いつでも作品が観て楽しめるエリアを目指し、来年からのコンセプトは「Always」とし、春会期（4～6月）を設定。費用をかけずに蓄積した手持ち作品（暖簾等）及び新たな作家賛同作品を中心に展示し芸術祭を行う計画。

7 県民局と協働した効果及び課題

- ・県民局との協働による「美作国創生公募提案事業」として、美作国の発展・人材育成の責任を負っていることを実行委員に徹底するとともに、来訪者にも芸術祭の趣旨説明を行った。その結果、鳥取県からの来訪者・視察の方も次々と来られた。また、実行委員にとっては奥津や鏡野だけの発展だけを考えるのではなく、常に国道179号沿線並びに5年先10年先の美作国エリアの発展を共通意識とすることをより周知できた。
- ・今後、さらに本取組と組織をパワーアップし、県民局と移住者・有識者・地元次世代リーダー層を含め、上手く協働していくことができれば、変革をもたらすことができるのではないかと考える。

以上